

株主および投資家のみなさまへ

Shimadzu Report

第145期 事業のご報告

平成19年4月1日～平成20年3月31日

株式会社 **島津製作所**

世界に支持される島津ブランド

Contents

株主の皆様へ……………	1
業績の推移……………	2
特集:新中期経営計画……	3
事業の概要……………	5
グループ会社紹介…………	8
トピックス……………	9
連結決算の概要……………	11
単独決算の概要……………	13
会社概要・株式情報……	14

※表紙写真の説明は、10頁をご覧ください。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
ここに第145期(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)の
事業のご報告をお届けいたしますので、よろしくご高覧賜わりますよう
お願い申し上げます。

平成20年6月

取締役社長 服部重彦



当期の業績

当社グループの売上・利益とも過去最高となりました。

当期におけるわが国経済は、原油・素材価格上昇や年明け以降の急激な円高・ドル安の影響等で景気は減速感が出ているものの輸出や設備投資が堅調に推移し、概ね回復基調を維持しました。海外においては、米国経済はサブプライムローン問題による景気減速がみられるものの、個人消費や企業部門の設備投資に支えられ、概ね堅調に推移しました。欧州では景気は緩やかに回復し、アジアでは景気拡大が続きました。特に、中国、インド、ロシアでは市場の急速な拡大が続きました。

このような情勢のもとで、当社グループは、中期経営計画(平成17年4月～平成20年3月)の最終年度にあたり、グローバル化の促進と生産・販売・サービス改革を中心とする事業構造改革を進めるとともに、顧客ニーズに対応した新製品の拡販に注力いたしました。

この結果、当期の業績につきましては、売上高は2,899億7千1百万円(前期比10%増)となり、営業利益は275億9千7百万円(同9%増)、経常利益は238億6千4百万円(同3%増)、当期純利益は137億2千4百万円(同3%増)となりました。

期末配当金につきましては、1株につき5円とさせていただきます。(中間配当金4円と合わせ年9円となりますので、年間では前期に比べ1円の増配となります。)

今後の見通し

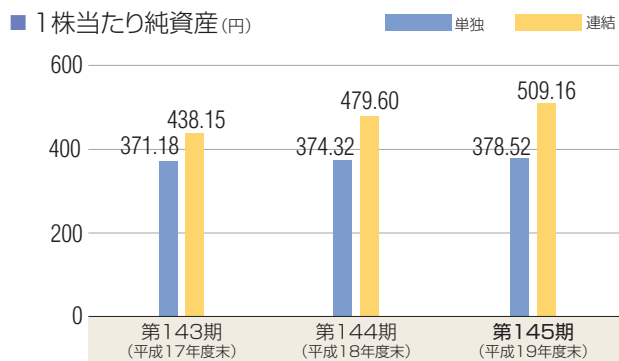
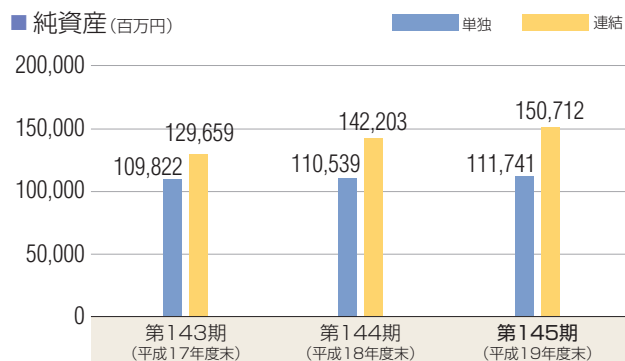
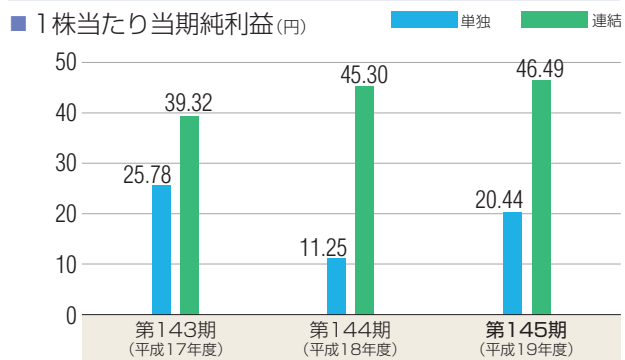
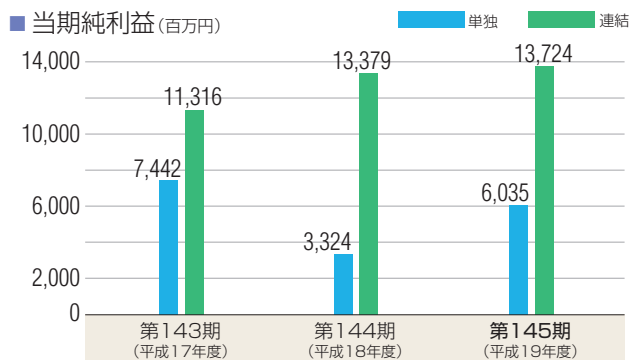
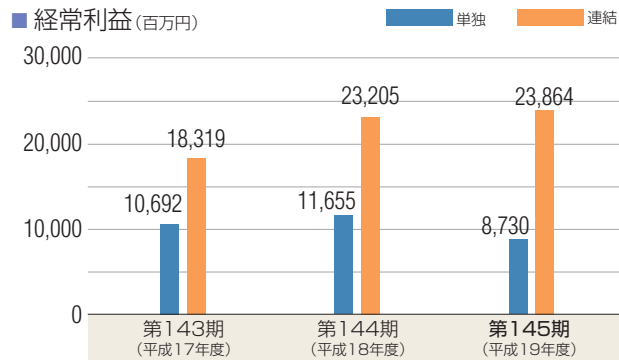
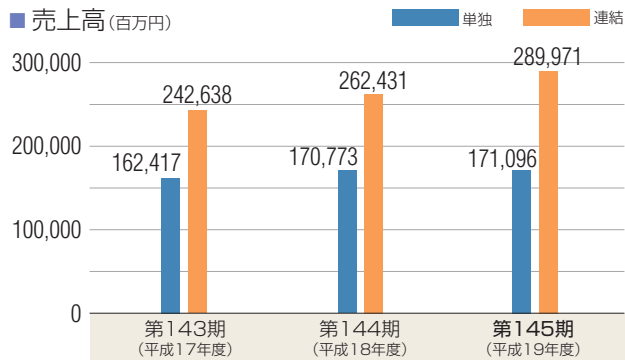
4月からスタートした3カ年新中期経営計画を着実に実行していきます。

今後の見通しにつきましては、国内景気は緩やかな回復基調を持続すると見込まれているものの、一方でサブプライムローン問題や為替、原油・素材価格の動向および米国経済の減速などが懸念され、先行き不透明な状況にあります。

このような経営環境のもと、当社グループは、本年4月からスタートした3カ年新中期経営計画の基本方針である“世界に支持される島津ブランド”の構築を目指して、マーケティング力強化による成長の持続と確固たる収益基盤を構築するための機能・プロセス改革を着実に実行してまいります。新中期経営計画の具体的な内容につきましては、3,4頁でご説明しておりますので、ご参照下さい。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

業績の推移



特集：新中期経営計画

“世界に支持される島津ブランド”を目指して

当社は、「真のグローバル企業」となることを目指しており、前中期経営計画（2005年4月～2008年3月）においては「グローバル成長」を基本方針として、グローバル化の促進・主力事業の更なる強化を、また生産・販売・サービス改革を中心とする「事業構造改革」を進めてまいりました。2008年4月から次の3ヵ年の新中期経営計画（2008年4月～2011年3月）をスタートさせました。この中期経営計画では、「真のグローバル企業」を目指すために、“世界に支持される島津ブランド”の構築を目標として掲げました。

新中期経営計画のキーワードである「成長戦略」と「機能・プロセス改革」についてご説明いたします。

「成長戦略」について説明します

成長戦略としては、「マーケティング力強化による成長の持続」を基本方針としています。これまで、製品力強化と販売力強化を進めてきました。今後はこれらに加えて、産業・顧客指向のマーケティング活動をグローバルに展開し、顧客の付加価値を高める様々なアプリケーションを、拡大の見込めるライフサイエンスや自動車などの各産業向けに提供します。また、各産業のリーディング企業との関係を深めて先端的なニーズをいち早く汲み取り、新たな製品として具体化して新需要を創出します。こうした新しい製品やアプリケーションを世界各国のお客様に提供し、グローバルな事業拡大を図ってまいります。

また、「新しい分野への事業展開」として、次世代医療領域、産業計測領域での新事業に挑戦します。次世代医療領域では、分子イメージングや質量分析の新装置の提供や創業支援イメージング受託事業など、基礎医学や創薬の研究支援を行います。産業計測領域では、高度化が進む半導体、製薬、自動車での先端的ニーズを汲み取り、生産ラインに計測装置を組み込んで生産過程での品質チェックを可能にするインライン計測に挑戦します。

「機能・プロセス改革」について説明します

「ものづくりの追求」がメーカーの基本と考え、これまで生産改革を進めて、内製化による品質向上やリードタイム短縮を実現してきました。今後はこれらの成果がお客様まで届くように、物流改革や製造と販売活動の連携をさらに深めて、グローバルSCM（サプライチェーン・マネジメント）を構築して、生産性の向上によるトータルなコストダウンとグローバルな棚卸資産の大幅削減を達成し、収益体質の強化に繋げてまいります。

これに開発プロセス、営業、サービス改革を加えて、全プロセスの改革を「顧客に価値を届ける機能の強化」として位置づけています。製品開発については、開発テーマの重点化とソフトウェア開発の飛躍的な向上を図り、有力な新製品の途切れない投入を行います。営業においては、産業・顧客別マーケティング活動と連携して顧客カバー率の向上を図ります。またサービスについては、保守・点検や部品・消耗品事業の拡大を図り、サービス収入を製品販売に次ぐ収益の柱とすることを目指します。

次の3ヵ年は、これらの方針に従って事業を展開し、島津ブランドが世界のお客様に信頼され、支持されるよう取り組んでまいります。

基本方針「真のグローバル企業」に向けて

将来
(2015)

真のグローバル企業

- 世界中の顧客に信頼される技術と製品
- 世界No.1の製品
- 海外売上高比率50%以上

新中期経営計画
(2008.4～2011.3)

世界に支持される
島津ブランド

成長戦略

マーケティング力強化による成長の持続
世界No.1機種の獲得

新しい分野への事業展開

機能・プロセス改革

ものづくりの追求

顧客に価値を届ける機能の強化

売上高 3,200億円
営業利益 360億円
海外売上高比率 42%以上

前中期経営計画
(2005.4～2008.3)

グローバル成長と
事業構造改革

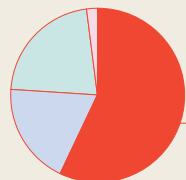
目標
達成

	目標	実績
売上高	2,700億円	2,900億円
営業利益	270億円	276億円
海外売上高比率	35%	41%

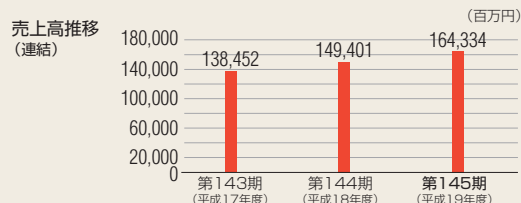
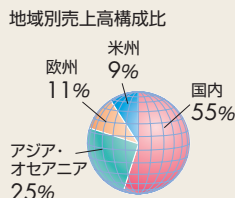


事業の概要

計測機器事業



当期連結売上高
1,643億3千4百万円
(前期比10%増)
売上高構成比 **57%**



【概況】

- 国内市場は、官公需が低調であったものの化学・自動車・鉄鋼などの産業を中心に民間企業による設備投資が続き、発光分析装置、材料試験機、工業用X線検査装置、クロマトグラフなどが堅調に推移しました。また、排ガス測定装置の更新需要が継続し、環境計測機器も堅調な動きとなりました。
- 海外市場は、全体的に堅調に推移しましたが、特に欧州・米州においてはクロマトグラフ・質量分析計が、中国では光分析装置・環境計測機器が好調に推移しました。また中東における大規模な石油プラント需要により売上が拡大しました。

主な製品

ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、質量分析計、光分析装置、表面分析装置、タンパク質解析装置、環境測定機器、材料試験機、工業用X線検査装置、光学デバイス、レーザ機器、はかり

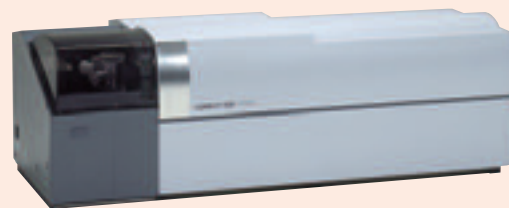
【今後の事業展開】

- 国内市場は企業の研究開発投資が堅調に推移する見込みで、クロマトグラフ、質量分析計、光分析装置などを中心に拡販を進めるとともに、さまざまな分野に対応したアプリケーション開発やアフターマーケットビジネスの拡大に努めます。
- 海外市場では、クロマトグラフや質量分析計を中心に、中東・インド・ロシアなどでも販売強化を進め、グローバル体制構築による事業拡大に努めます。
- 環境・安全への関心は全世界規模で高まっており、今後も環境計測機器の需要が大きく伸びることが予想されます。市場ニーズにマッチした新製品の開発やサポート体制の強化など市場の変化に柔軟に対応することにより売上拡大を目指します。

【トピックス】

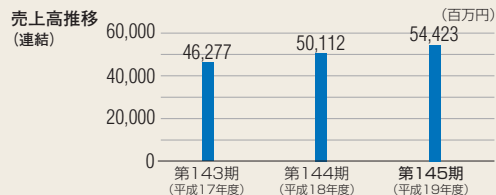
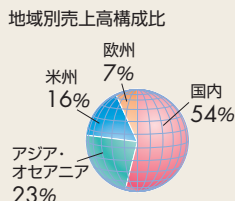
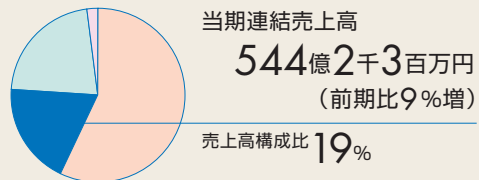
海外で高速液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-IT-TOFの需要が増加

製薬や創薬などの分野における微量な化合物の役割の解明を担う分子構造解析装置で、特に欧州・米国での需要が増加してきましたが、その応用分野の拡大に伴い、他のエリアでも売上が拡大しています。



高速液体クロマトグラフ質量分析計

医用機器事業



【概況】

- 国内市場は、X線画像診断システムなどのX線機種を中心に、堅調に推移しました。
- 海外市場は、世界的な好況と新興国・資源国の医療整備の進展もあって、米国を含む全ての市場において業績を伸ばしました。

主な製品

診断用X線装置、PETシステム、医用X線CT装置、超音波画像診断システム、医療情報システム

【トピックス】

米国で高い評価を受けているデジタル回診用X線装置

院内を移動してX線撮影をすることができるFPD搭載の回診用X線装置は、特に米国で高いシェアを誇るとともに、品質・サービスなどを総合的に評価する外部機関のランキングにおいて1位を得るなど好評を得ています。

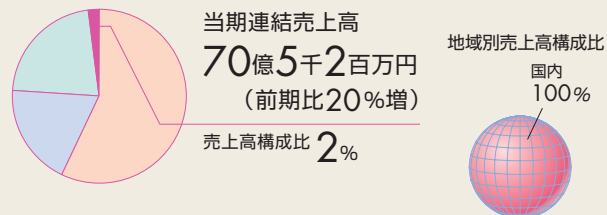


デジタル回診用X線装置

【今後の事業展開】

- 大視野の直接変換方式フラットパネル検出器 (FPD) 搭載X線画像診断システムのラインアップが揃い、今後はさらに臨床アプリケーションの充実を図っていくことにより、競争力の強化を目指します。
- 他社とのアライアンスによる製品の相互供給、新製品の開発、販売ネットワークの強化などをさらに充実させることにより売上の拡大を目指します。
- 海外においては、デジタル機器の一層の拡販と、欧州・米国・中国のほか、アジア・中東・ロシアなど、グローバルに販売・サービス体制を強化し、事業拡大を図ります。

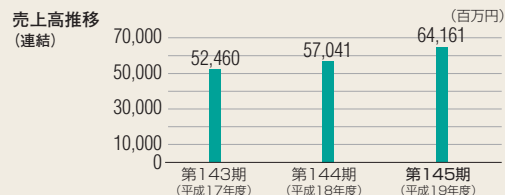
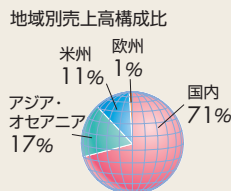
その他の事業



主な事業

不動産賃貸、不動産管理、ソフトウェア開発、製品設計、建設舗床業 等

航空・産業機器事業



【概況】

- 航空機器は、修理事業や補用部品などを中心に国内市場は堅調に推移しました。海外市場は、民間航空機需要が増加し、好調に推移しました。
- 産業機器は、国内市場では低調に推移したものの、海外市場においては、ターボ分子ポンプ、太陽電池成膜装置、ガラス繊維巻取機などの需要が増加し、中国を中心とするアジアで売上が増加しました。

【今後の事業展開】

- 航空機器については、防衛省の次期固定翼哨戒機・輸送機搭載機器の将来の量産に備えて、搭載機器の品質・コストの改善作業を進めるとともに、製造力強化のために導入した内製化設備の整備を急ピッチで進めます。民間航空機関連については、ボーイング747-8型機用フラップ駆動システム主要構成機器などの納入や、米国において開始した航空機搭載機器の修理サービス事業により事業拡大を目指します。
- 半導体市場の動向については不透明感がありますが、液晶市場やガラスコーティング市場では今後も投資が続くことが予想されることからターボ分子ポンプの需要増を見込んでおり、昨年12月に竣工した新工場(9頁ご参照)での生産体制強化に努めます。
- 太陽電池および液晶市場の需要増に対応して生産設備を増強し、内製化率を高めることによりさらに品質向上とコスト低減を図ります。

主な製品

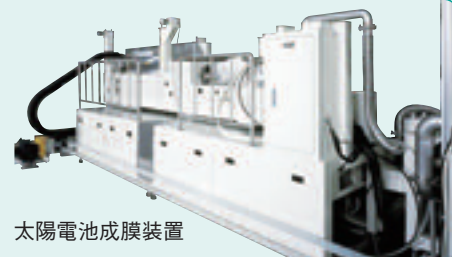
航空機器：空調システム、飛行制御システム、ヘッドアップディスプレイ、ロケット用バルブ、航空機器機能試験装置

産業機器：ターボ分子ポンプ、液晶TFTアレイ検査装置、太陽電池成膜装置、プラズマCVD装置、液送機器、油圧機器

【トピックス】

省エネルギー・環境保全を追い風に、太陽電池成膜装置の受注が好調

太陽電池市場は、需要が世界的に増加しています。特に中国・台湾などの太陽電池製造機器メーカーからの受注が急増しており、大幅な売上増が期待できます。今後は、小型化と生産効率の向上を目指した次期新製品の開発を進めてまいります。



太陽電池成膜装置

グループ会社紹介

Vol.6

島津メクテム株式会社 Shimadzu Mectem, Inc.



本社・工場（滋賀県大津市）

新中期経営計画では「真のグローバル企業」を目指し、“世界に支持される島津ブランド”の構築を目標として掲げています。今回は、産業用精密機器を製造・販売し、世界に通用するグローバル企業を目指しているグループ会社を紹介します。

Q. 島津メクテムはどんな会社？



- 資本金：1億円（島津製作所 全額出資）
- 年間売上高：112億円（2008年3月期）
- 拠点：本社・工場/滋賀県大津市
支店/東京・大阪
製造子会社/中国



A. 島津メクテム株式会社は、各種真空脱脂・焼結炉、ガラス繊維巻取機、液送ギアポンプ、X線検査装置等を製造・販売しており、国内外で高いシェアを誇っています。

1962年に設立以来、真空/熱処理技術、高粘度/高圧液送技術、高速回転制御技術、X線検査技術等独自のコア技術の研鑽を重ね、世界の1級品として手堅く息の長い製品を市場に送り続けています。

昨年度は、ガラス繊維巻取機の需要が多く、売上の30%強を占めました。ガラス繊維の需要はプリント基板はもとより、これからは自動車用部材、風力発電などのハイテク素材分野への展開が期待されます。



ガラス繊維巻取機



工場内

Q. ガラス繊維巻取機とはどのようなものですか？



A. 熔融ガラスを繊維状に引き出し、高速で巻き取るガラス繊維の製造装置です。

ガラス繊維の生産効率および品質の向上により、島津メクテムのガラス繊維巻取機は、世界中で採用されています。



ガラス繊維は、風力発電の風車の羽根にも使われています。



トピックス

第145期の主なトピックス

平成19年(2007)

4月 ■ 高性能と使いやすさを両立した最上位の万能試験機 AG-Xシリーズを発売

■ 次世代医療を支える分子イメージング向けに実験小動物用PET装置を発売

6月 ■ 中国の排水規制市場に対応した新方式のオンラインUV計を発売

■ 島津(香港)有限公司とジーエルサイエンス株式会社が共同で、分析機器用消耗品・前処理装置の販売合併会社を上海に設立

7月 ■ 当社よりFPD・X線装置、富士フィルム株式会社より画像処理装置を相互に供給し、医用デジタルX線画像診断装置を発売

8月 ■ 完全自動化とランニングコスト1/4以下を実現したマイクロチップ電気泳動装置を発売

10月 ■ 効率的な診断が行える完全分離タイプの高性能PET/CT装置を発売

12月 ■ 高度なタンパク質解析や高分子研究を支援する質量分析装置AXIMAシリーズを発売

- 計測機器事業
- 医用機器事業
- 航空・産業機器事業

12月 ■ 本社・三条工場内にターボ分子ポンプの新工場を竣工

ターボ分子ポンプ新工場

新工場では、主要部品であるローター(多重構造の羽根)の一貫生産体制により世界シェアトップを目指します。(平成20年1月操業開始)



平成20年(2008)

1月 ■ 三菱重工業株式会社からターボ分子ポンプ事業を譲受

■ 位置決め機能を搭載し、検査効率を大幅に高めた工業用X線CT装置を発売

■ 様々な異物分析や医薬品原料の検査を支援するフーリエ変換赤外分光光度計を発売

フーリエ変換赤外分光光度計IRAffinity

試料に赤外光を照射し、その透過光または反射光を検出して、有機化合物の構造推定を行う分析装置です。今回、操作性、保守性、基本性能を大幅に向上させました。



2月 ■ 医薬品中の不純物や食品中の残留農薬など、極微量化合物を高速分析できる超高速液体クロマトグラフ Prominence UFLC XRを発売

成長著しいロシア市場で販売・サービス体制を強化

グローバルでの事業拡大を目指します。

ロシアは、世界最大の埋蔵量を有するガス・石油などの天然資源の需要拡大などを背景に年率7%前後の経済成長が続いており、今後も安定した成長が見込める有望な地域です。当社は、このロシアをグローバル成長の重要地域と位置づけ、現地の販売・サービス体制を拡充・強化して事業拡大を目指します。

計測機器については、広大な地域における多様な産業構造や民営化進行などに対応して、現地の代理店スタッフによる販売・サービスのプロ集団を組織化した「戦略ビジネスパートナー」を各拠点に置き、販売・サービスを拡充します。2010年にはロシアにおける販売・サービス体制を150人体制として、より市場に密着した販売・サービスを目指します。さらに、モスクワなど3か所に設置した分析計測カスタマー支援センターの機能を強化し、「アプリケーションラボラトリー」として市場ニーズにマッチした分析手法を現地開発し、きめ細かなソリューションを提供できる体制を確立して顧客支援を強化します。

一方、医用機器については、ロシア中央政府が主導して医療体制の整備を進めていることから、連邦プロジェクト参画への取り組みを強化します。営業・サービスの充実・代理店の育成とともに、現地メーカーとの提携も視野に入れて市場浸透を図っていきます。

ロシアにおける島津グループの拠点



超高速液体クロマトグラフ Prominence UFLCは 南極でも活躍しています。

表紙に掲載した左の写真は、ポーランドの南極基地に当社の液体クロマトグラフを運ぶ途中に撮影した1枚です。

撮影者 / ARTUR DZIENISZEWSKI



超高速液体クロマトグラフ
Prominence UFLC

連結決算の概要

連結貸借対照表

(百万円)

	当期末 (平成20年3月31日)	前期末 (平成19年3月31日)		当期末 (平成20年3月31日)	前期末 (平成19年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	199,378	191,282	流動負債	103,911	96,480
ポイント1 現金預金	35,766	27,626	支払手形・買掛金	52,611	55,726
受取手形・売掛金	87,238	89,151	短期借入金	5,246	7,460
たな卸資産	66,000	64,017	一年内償還予定の社債	15,000	—
その他	11,252	11,368	その他	31,053	33,293
貸倒引当金	△ 879	△ 881			
固定資産	104,452	103,801	固定負債	49,207	56,399
有形固定資産	(66,788)	(63,669)	社債	20,000	25,000
建物・構築物	33,708	31,965	長期借入金	2,556	3,092
機械・運搬具	6,418	5,569	退職給付引当金	19,432	20,711
土地	18,849	18,907	役員退職慰労金引当金	237	687
その他	7,812	7,226	その他	6,982	6,908
無形固定資産	(6,211)	(4,009)	負債合計	153,118	152,880
投資その他の資産	(31,453)	(36,121)			
投資有価証券	12,352	15,535	純資産の部		
長期貸付金	969	539	ポイント2 株主資本	148,875	137,814
その他	18,302	20,307	資本金	26,648	26,648
貸倒引当金	△ 171	△ 260	資本剰余金	35,188	35,188
			利益剰余金	87,574	76,396
			自己株式	△ 536	△ 419
			ポイント2 評価・換算差額等	1,432	3,815
			その他有価証券評価差額金	3,211	5,464
			為替換算調整勘定	△ 1,779	△ 1,649
			少数株主持分	404	573
ポイント1 資産合計	303,830	295,083	純資産合計	150,712	142,203
			ポイント2 負債・純資産合計	303,830	295,083

ポイント1 総資産の増加

総資産が87億円増加しました。主な増加要因は現金預金81億円増です。

ポイント2 自己資本比率の向上

利益剰余金の増加などにより、自己資本比率が1.5ポイント向上し、49.5%となりました。

ポイント3 通期の過去最高を更新

連結売上高は前期比10%増加し、過去最高の2,900億円となり、営業利益276億円、経常利益239億円、当期純利益137億円と全て過去最高額を更新しました。

連結損益計算書

(百万円)

	当期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日)	前期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
ポイント③ 売上高	289,971	262,431
売上原価	177,378	159,107
販売費・一般管理費	84,995	78,042
ポイント③ 営業利益	27,597	25,280
営業外収益	1,678	1,742
営業外費用	5,411	3,817
ポイント③ 経常利益	23,864	23,205
特別利益	266	305
特別損失	501	1,094
税金等調整前当期純利益	23,629	22,416
法人税・住民税・事業税	5,753	8,684
法人税等調整額	4,125	297
少数株主利益	25	55
ポイント③ 当期純利益	13,724	13,379

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

	当期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日)	前期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,202	13,990
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,419	△ 9,797
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,083	△ 9,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	198	403
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	8,064	△ 5,130
現金及び現金同等物の期首残高	26,906	31,926
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	106	110
現金及び現金同等物の期末残高	35,077	26,906

連結株主資本等変動計算書

(百万円)

当期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	26,648	35,188	76,396	△ 419	137,814	5,464	△ 1,649	3,815	573	142,203
当期中の変動額										
剰余金の配当			△ 2,509		△ 2,509					△ 2,509
連結子会社増加による利益剰余金減少高			△ 37		△ 37					△ 37
当期純利益			13,724		13,724					13,724
自己株式の取得				△ 116	△ 116					△ 116
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					—	△ 2,253	△ 129	△ 2,382	△ 169	△ 2,552
当期中の変動額合計	—	—	11,177	△ 116	11,060	△ 2,253	△ 129	△ 2,382	△ 169	8,508
平成20年3月31日残高	26,648	35,188	87,574	△ 536	148,875	3,211	△ 1,779	1,432	404	150,712

単独決算の概要

貸借対照表

(百万円)

	当期末 (平成20年3月31日)	前期末 (平成19年3月31日)
資産の部		
流動資産	127,074	124,281
現金預金	13,409	5,038
受取手形	19,582	21,656
売掛金	41,956	45,672
たな卸資産	38,798	39,885
その他	13,538	12,263
貸倒引当金	△ 211	△ 236
固定資産	105,751	104,744
有形固定資産	(58,458)	(55,304)
建物・構築物	30,196	28,257
機械・器具等	10,058	8,829
土地	18,169	18,169
その他	33	48
無形固定資産	(5,411)	(3,213)
投資その他の資産	(41,882)	(46,226)
投資有価証券	11,748	14,954
関係会社株式	13,774	13,507
長期貸付金	1,085	678
その他	15,474	17,309
貸倒引当金	△ 200	△ 225
資産合計	232,826	229,025

負債の部

	当期末 (平成20年3月31日)	前期末 (平成19年3月31日)
流動負債	79,959	70,682
支払手形	983	4,297
買掛金	35,303	36,408
短期借入金	10,201	8,177
一年内償還予定の社債	15,000	—
未払金	10,988	9,992
その他	7,482	11,806
固定負債	41,124	47,803
社債	20,000	25,000
長期借入金	456	229
長期未払金	463	—
長期預り金	6,205	6,637
退職給付引当金	13,999	15,344
役員退職慰労金引当金	—	592
負債合計	121,084	118,485
純資産の部		
株主資本	108,538	105,129
資本金	26,648	26,648
資本剰余金	35,188	35,188
利益剰余金	47,237	43,710
自己株式	△ 536	△ 419
評価・換算差額等	3,203	5,410
純資産合計	111,741	110,539
負債・純資産合計	232,826	229,025

損益計算書

(百万円)

	当期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日)	前期 (平成18年4月1日～ 平成19年3月31日)
売上高	171,096	170,773
売上原価	116,654	116,411
売上総利益	54,442	54,362
販売費・一般管理費	44,523	42,823
営業利益	9,918	11,539
営業外収益	4,511	3,586
営業外費用	5,699	3,470
経常利益	8,730	11,655
特別利益	247	261
特別損失	448	3,569
税引前当期純利益	8,528	8,347
法人税・住民税・事業税	△ 1,139	3,254
法人税等調整額	3,632	1,768
当期純利益	6,035	3,324

会社概要 (平成20年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社島津製作所
SHIMADZU CORPORATION
創業 明治8年(1875年)3月
設立 大正6年(1917年)9月
本社所在地 〒604-8511
京都市中京区西ノ京桑原町1番地
電話075-823-1111(代表)
資本金 26,648,899,574円
従業員数 単独 3,140名 連結 9,326名
連結子会社数 国内32社 海外39社

主要な事業所

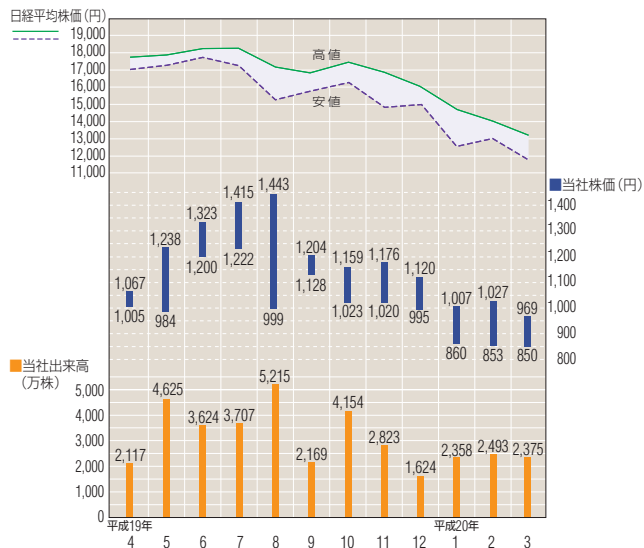
本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
支社 東京/関西(大阪市)
支店 京都/九州(福岡市)/名古屋/横浜/
北関東(さいたま市)/神戸/つくば/広島/
東北(仙台市)/札幌/四国(高松市)/静岡
工場 三条/紫野(いずれも京都市)/厚木(厚木市)/
秦野(秦野市)/瀬田(大津市)
研究所 基盤技術研究所(京都府精華町/東京都千代田区)
田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

株式情報 (平成20年3月31日現在)

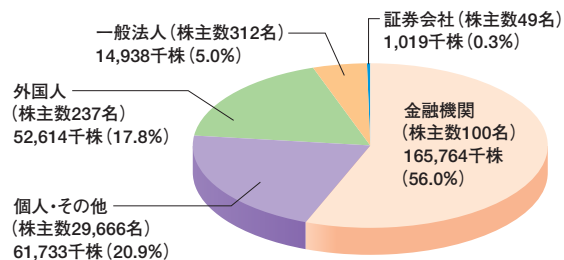
株式の状況

株主数..... 30,364名
発行済株式総数..... 296,070,227株

株価の推移 (東京証券取引所)



株式の所有者別分布



大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 [信託口]	33,507	11.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 [信託口]	21,719	7.36
明治安田生命保険相互会社	21,130	7.16
東京海上日動火災保険株式会社	7,687	2.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
日本生命保険相互会社	6,182	2.09
全国共済農業協同組合連合会	5,847	1.98
株式会社京都銀行	4,922	1.67
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,605	1.56

* 出資比率は、自己株式(865,864株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日 (その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ (http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html) に掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によ って電子公告による公告をすることができない場合は、 京都新聞および日本経済新聞に掲載します。

上場証券取引所	東京・大阪
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪府北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店

当社株式に関するお問合せは、株主名簿管理人あてにご照会ください。

株式に関する お問合せ

〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料)
0120-094-777
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

各種手続き 用紙のご請求 (24時間受付)

電話(通話料無料・音声自動応答)
0120-244-479(東京)
0120-684-479(大阪)
インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

島津創業記念資料館のご案内

昭和50年、創業100周年記念事業の一環として日本の科学技術研究の一助になればとの願から、当社創業の地、京都木屋町二条に開設。国産最古の顕微鏡をはじめ、創業当時の理化学機器・標本や初期の医用X線装置を中心に、文献・資料など約600点を展示、一般公開しています。昨年7月、入館者が開設以来20万人となりました。



島津創業記念資料館(国の登録有形文化財)
建物は、創業当時のままの姿を残しています。

- 休館日 / 水曜日、年末年始
- 入館時間 / 9:30~16:30(閉館17:00)
- 入館料 / 大人300円 高・中学生200円
団体割引(20名以上20%引)

- 市バス 市役所前下車徒歩約2分
- 京阪電車 三条下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線 市役所前下車徒歩約2分
- 京都駅からのアクセス
市バス:205(四条河原町方面)、17系統乗車
タクシー:約20分



〒604-0921 京都市中京区木屋町二条南
●TEL/075-255-0980 ●FAX/075-255-0985
●<http://www.shimadzu.co.jp/forest/>

島津創業記念資料館 株主様無料入館券

本券1枚につき4名様まで無料で入館いただけます。
(平成21年3月末まで有効)

 **SHIMADZU**
<http://www.shimadzu.co.jp/>

●再生紙を使用しています。
DP050-0145B
0220-05801-32B-NS